

# 2016年3月期 業績概要

橋本 裕一  
アンリツ株式会社  
代表取締役社長 グループCEO

2016年4月28日



東証第1部：6754  
<http://www.anritsu.com>

**Anritsu**  
envision:ensure

(ノート部記載なし)

## 注記

本資料に記載されている、アンリツの現在の計画、戦略、確信などのうち、歴史的事実でないものは将来の業績等に関する見通しであり、リスクや不確実な要因を含んでおります。将来の業績等に関する見通しは、将来の営業活動や業績に関する説明における「計画」、「戦略」、「確信」、「見通し」、「予測」、「予想」、「可能性」やその類義語を用いたものに限定されるものではありません。実際の業績は、さまざまな要因により、これら見通しとは大きく異なる結果となりつることをご承知おきください。

実際の業績に影響を与えうる重要な要因は、アンリツの事業領域を取り巻く日本、米州、欧州、アジア等の経済情勢、アンリツの製品、サービスに対する需要動向や競争激化による価格下落圧力、激しい競争にさらされた市場の中でアンリツが引き続き顧客に受け入れられる製品、サービスを提供できる能力、為替レートなどです。

なお、業績に影響を与えうる要因はこれらに限定されるものではありません。また、法令で求められている場合を除き、アンリツは、あらたな情報、将来の事象により、将来の見通しを修正して公表する義務を負うものではありません。

(ノート部記載なし)

## 目次

### I. 2016年3月期 業績概要

#### I - 1. 事業概要

#### I - 2. 連結決算概要

### II. 2017年3月期 通期業績予想（連結）

#### II - 1. 2017年3月期 通期業績予想

#### II - 2. 配当予想について

### III. GLP2017 達成に向けた取り組み

(ノート部記載なし)

**Blank slide**

(ノート部記載なし)

## I - 1. 事業概要



(セグメント別売上比率) 2016年3月期 実績 (連結) : 955億円

T&M 71%			PQA 20%	その他 9%
モバイル 45%	ネットワーク・インフラ 35%	エレクトロニクス 20%		

(T&M事業 地域別売上比率)

日本 15%	アジア、パシフィック 35%	米州 30%	EMEA 20%
--------	----------------	--------	----------

T&M: Test & Measurement PQA : Products Quality Assurance

(ノート部記載なし)

## I - 2. 連結決算概要 - 事業別状況 -

セグメント	2016年3月期（4月-3月）の状況
<b>▶ T&amp;M：モバイル市場は投資抑制が続く</b>	
モバイル	チップ・端末ベンダーの設備投資抑制継続
NW	光デジタル関連への設備投資堅調
エレクトロニクス	モジュール開発・業務用無線で回復基調
アジア	中国スマホ市場の成長率鈍化 光デジタル関連の製造設備需要増加
米州	通信キャリアの建設投資抑制が続く
<b>▶ PQA：国内コンビニ市場中心に設備投資が増加</b>	
T&M: Test & Measurement      NW: Network Infrastructure      PQA : Products Quality Assurance	
 <span style="margin-left: 300px;">6</span> <span style="float: right; font-size: small;">Financial Results FY2015 Copyright© ANRITSU CORPORATION</span>	

T&M事業は、モバイル市場において、全般的に顧客の投資抑制が継続しています。スマートフォンの出荷台数伸び率鈍化の影響で、中国端末ベンダーの製造用設備投資に一層の抑制傾向がみられ、結果としてモバイル計測市場全体の成長が鈍化しています。

ネットワーク・インフラ市場においては、データセンター向け光モジュール開発・製造で用いられる光デジタル関連計測器の需要が堅調な一方、北米通信キャリアのLTEネットワーク建設投資抑制が継続しています。

プロダクツ・クオリティ・アシュアランス(PQA)事業は、国内・海外市場とも増収基調が継続しています。とりわけ国内においては、コンビニ市場を中心に多様な加工食品市場で、新製品が設備更改需要を捉え、売上を伸ばしました。

## I - 2. 連結決算概要 - 業績サマリー -

(単位：億円)

国際会計基準(IFRS)	前期実績	当期実績	前期比 増減額	前期比 増減率(%)
受注高	1,011	946	△ 65	△ 6%
売上高	988	955	△ 33	△ 3%
営業利益	109	59*	△ 50	△ 46%
税引前利益	116	54**	△ 62	△ 53%
当期利益	79	38	△ 41	△ 52%
当期包括利益	119	6	△ 113	△ 95%
フリーキャッシュフロー	15	12	△ 3	△ 25%

(注) 値はそれぞれの欄で四捨五入

\*リストラ費用約7億円含む

\*\*金融収支に為替差損約4億円含む

**Anritsu** envision : ensure

7

Financial Results FY2015  
Copyright© ANRITSU CORPORATION

グループ全体の受注高は前期比6%減の946億円、売上高は前期と同水準の955億円となりました。営業利益は前期比46%減の59億円となりました。

第2四半期から第4四半期に、北米と欧州において組織体制の再構築およびスリム化を実施しました。営業費用にリストラ費用約7億円を計上しています。

当期利益は、前期比52%減の38億円、包括利益は、前期比95%減の6億円となりました。

フリーキャッシュフローは、運転資本の改善効果などによる営業キャッシュフローの増加が、グローバル本社棟の建設費用の支払いなどを上回り、12億円のプラスとなりました。

## I - 2. 連結決算概要 - 金融収支・税金費用・包括利益 -

(単位：億円)

	前期実績	当期実績	前期比 増減額
営業利益	109	59	△ 50
為替差損益*	8	△ 4	△ 12
その他の金融収益・費用など	△ 1	△ 1	0
税引前当期利益	116	54	△ 62
法人所得税費用	37	17	△ 20
当期利益	79	38	△ 41
その他の包括利益	40	△ 31	△ 71
確定給付制度の再測定	13	△ 16	△ 29
在外営業活動体の換算差額	27	△ 18	△ 45
その他	△ 0	3	3
当期包括利益	119	6	△ 113

\* 為替予約時価評価を含む

(注) 値はそれぞれの欄で四捨五入

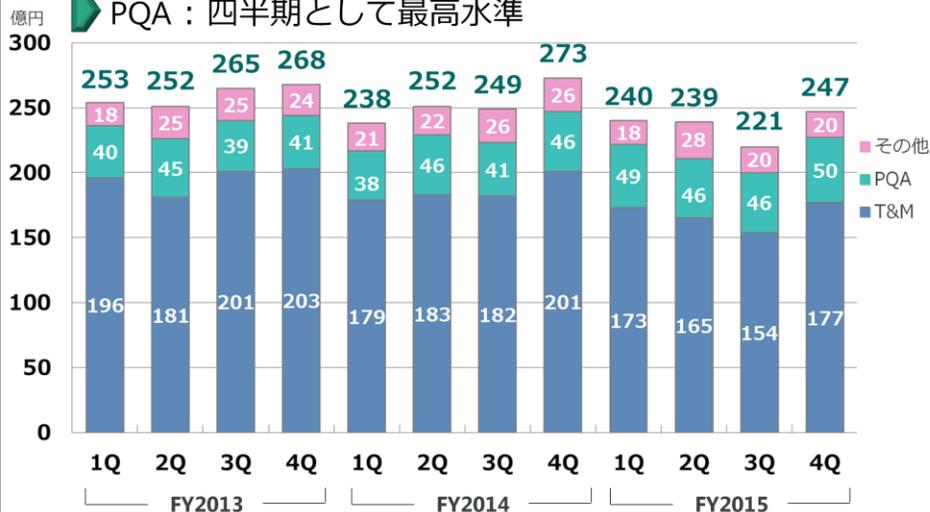
急激な円高進行で、為替差損約4億円を計上しています。また、法定実効税率の変更による繰延税金資産の取り崩し(4Q:約3億円)を行っています。

その他の包括利益において、割引率の見直しなどに伴う年金給付債務の増加と在外営業活動体の評価替えが発生しました。

## I - 2. 連結決算概要 - 受注高推移 -

▶ T&M：前年四半期比12%減少

▶ PQA：四半期として最高水準



T&M事業の第4四半期受注高は、前年同期比12%減の177億円となりました。スマートフォン製造用計測器の需要減退や、北米キャリアのLTEネットワーク建設投資が一巡するものの、第4四半期受注高としては改善方向を示しました。

PQA事業の第4四半期受注高は、前年同期比7%増の50億円となりました。弁当や惣菜を扱う国内食品ベンダーを中心に、設備更改需要を新製品がとらえました。

## I - 2. 連結決算概要 - 事業別売上高・営業利益 - (単位：億円)

国際会計基準(IFRS)		前期実績	当期実績	前期比 増減額	前期比 増減率(%)
T&M	売上高	734	677*	△ 57	△ 8%
	営業利益	89	47*	△ 42	△ 47%
	(コア営業利益)	(88)	(54)	(△34)	(△39%)
PQA	売上高	162	189	27	17%
	営業利益	8	12	4	45%
	(コア営業利益)	(7)	(12)	(5)	(62%)
その他 (含：内部消去)	売上高	92	89	△ 3	△ 3%
	営業利益	11	△ 0	△ 11	-
	(コア営業利益)	(6)	(△ 0)	(△ 6)	-
合計	売上高	988	955	△ 33	△ 3%
	営業利益	109	59*	△ 50	△ 46%
	(コア営業利益)	(101)	(65)	(△ 36)	(△ 35%)

(注1) コア営業利益：IFRSベースの営業利益から、一時的要因を排除した恒常的な事業の業績を測る当社独自の利益指標

(注2) 値はそれぞれの欄で四捨五入

T&M: Test & Measurement PQA: Products Quality Assurance \*リストラ費用約7億円含む

 envision : ensure

10

Financial Results FY2015  
Copyright© ANRITSU CORPORATION

T&M事業は減収減益となり、営業利益率は6.9%となりました。欧米でのリストラ費用約7億円を除く、コア営業利益ベースでは7.9%となりました。

PQA事業は増収増益となり、営業利益率は6.3%となりました。

なお、その他セグメントにおける前期実績のコア営業利益は、雪害の影響による本社工場の活用計画変更に伴う減損の戻し額6億円等を除いた内容です。

コア営業利益とは：

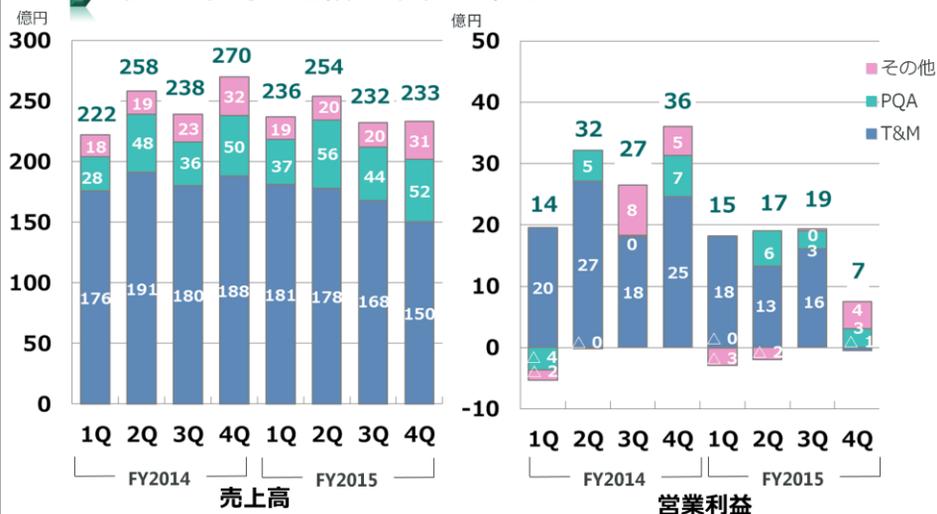
IFRSベースの営業利益から、

- ・減損損失及び戻入
- ・固定資産の売却損益
- ・事業構造改革のための費用

等、一時的要因を排除した恒常的な事業の業績を測る当社独自の利益指標です。

## I - 2. 連結決算概要 - 四半期毎 売上高・営業利益 -

▶ 第4四半期の連結営業利益率 3.1%



(注) 値はそれぞれの欄で四捨五入

FY15 T&M 営業利益には リストラ費用 (2Q: 4億円, 3Q: 1億円, 4Q: 2億円) を含む

Anritsu envision: ensure

11

Financial Results FY2015  
Copyright© ANRITSU CORPORATION

第4四半期の連結及びT&M事業、PQA事業の営業利益率はそれぞれ

連結 3.1%

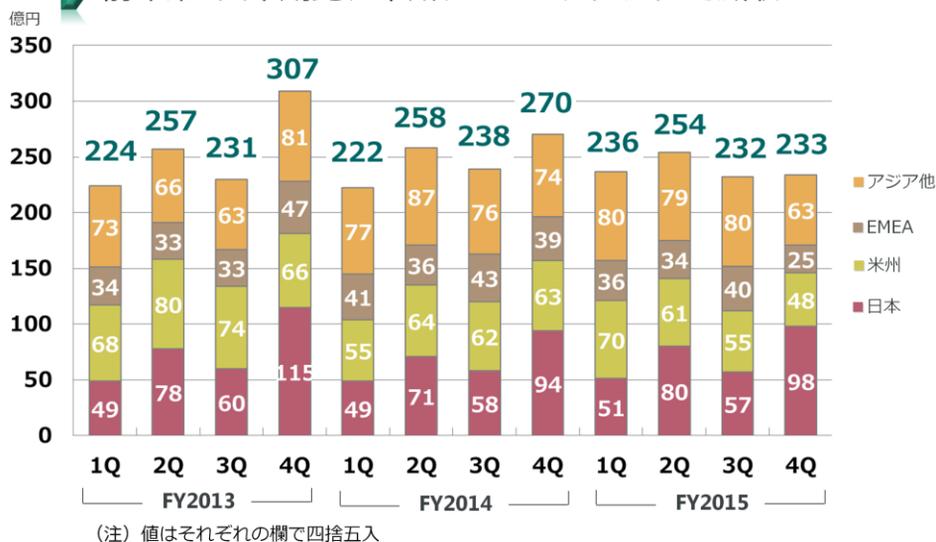
T&M -0.4% (リストラ費用約2億円を除いた場合: 0.8%)

PQA 6.3%

となりました。

## I - 2. 連結決算概要 - 地域別売上高推移 -

前年第4四半期比、米州、EMEA、アジアで減収



日本市場は、前年同期と同水準でしたが、海外市場は全ての地域で減収となり、米州市場は同24%、EMEA市場は同36%、アジア市場は同15%の減収となりました。

## I - 2. 連結決算概要 - キャッシュフロー -

▶ 営業CFマージン率11%

内訳

(単位：億円)

### FY2015 (累計)

- ①営業CF： 102億円
- ②投資CF： △90億円
- ③財務CF： 25億円

フリーキャッシュフロー  
(①+②)： 12億円

現金同等物期末残高  
374億円

有利子負債高  
220億円

(注) 値はそれぞれの欄で四捨五入



営業キャッシュフローは、主に売上債権の回収増により、102億円の資金獲得となりました。

投資キャッシュフローの90億円の支出には、厚木サイトの新棟「グローバル本社棟」の建物関連費用45億円の支払いが含まれます。

その結果、フリー・キャッシュフローは12億円の資金獲得となりました。

財務キャッシュフローは25億円の資金獲得となりました。主なものは社債の発行による80億円(償還期限:2020年6月, 格付けA-)の調達、銀行借入金の返済(ネットで20億円)、配当金の支払い33億円(1株配当:24円)です。

以上の結果、現金同等物期末残高は、期首残高より25億円増加の374億円となりました。

## II - 1. 2017年3月期 通期業績予想（連結）

▶ 円高見通しの中、前年度並み以上を確保

（単位：億円）

国際会計基準(IFRS)		2016/3期		2017/3期	
		前期実績	通期予想	前期比 増減額	前期比 増減率(%)
売上高		955	970	15	2%
営業利益		59*	72	13	22%
税引前利益		54**	71	17	31%
当期利益		38	53	15	41%
T&M	売上高	677	680	3	0%
	営業利益	47*	55	8	17%
PQA	売上高	189	200	11	6%
	営業利益	12	14	2	17%
その他 (含：内部消去)	売上高	89	90	1	1%
	営業利益	△ 0	3	3	-

\*リストラ費用約7億円含む

(注) 値はそれぞれの欄で四捨五入

(参考) FY15為替レート：1米ドル120円、1ユーロ=133円

FY16想定為替レート：1米ドル110円、1ユーロ=125円

\*\*金融収支に為替差損約4億円含む

Anritsu envision : ensure

14

Financial Results FY2015  
Copyright© ANRITSU CORPORATION

2017年3月期の通期業績の見通しは以下のとおりです。

T&M事業は、円高傾向を織り込んで売上高は前年度並みの計画となります。主に以下の事業機会をとらえて、収益基盤の確保に努めてまいります。

- ・モバイル：キャリアアグリゲーションの拡張
- ・ネットワークインフラ：データセンター向け光モジュールの開発・製造需要
- ・IoT：車載/IoT向け開発需要

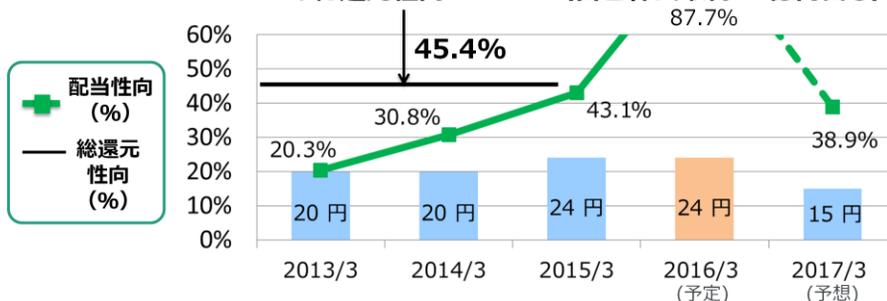
PQA事業は、前年度に引き続いて、国内外の食品加工市場における品質保証ニーズを、最適なソリューションの投入で確実にとらえて、売上高200億円を目指します。

## II - 2. 配当予想について

### 年間配当

	年間配当	当期利益	配当性向
<b>2017年3月期（予想）</b>	<b>15円</b>	<b>53億円</b>	<b>39%</b>
2016年3月期（予定）	24円	38億円	88%

FY12~FY14の総還元性向 45.4%（自己株式取得50億円含む）



Anritsu envision: ensure

15

Financial Results FY2015  
Copyright © ANRITSU CORPORATION

当社は、株主の皆様に対する利益還元について、連結業績に応じるとともに、総還元性向を勘案した利益処分を行うことを基本方針としております。

剰余金の配当については、連結当期利益の上昇に応じて、親会社所有者帰属持分配当率(DOE: Dividend On Equity)を上げることを基本にしつつ、連結配当性向30%以上を目標としており、株主総会決議もしくは取締役会決議により、期末配当及び中間配当の年2回の配当を行う方針です。

次期の配当は、次期業績見通しの達成を前提として、1株当たり年間15円(うち中間配当7.5円)を予定しております。

## Ⅲ．GLP2017達成に 向けた取り組み

(ノート部記載なし)

## 中長期の事業戦略の基本方針 <再掲>

成長ドライバーを確実にキャッチして、  
**“利益ある持続的成長”** を実現する

	市場 年平均 成長率	成長ドライバー	GLP2017 営業利益率 /ROE (当初計画)	ターゲット	
				売上 成長率	営業 利益率
T&M	3-5%	<b>ブロードバンドの拡大と革新</b> (1) LTE-Advanced (2) IoT/5G, Connectivity (3) Network Reshaping	15%	≥7%	≥20%
PQA	3-5%	<b>安全・安心と健康の増進</b> X線による品質保証ソリューション	8%	≥7%	≥12%
連結	—	—	14%	—	≥18%
ROE	—	—	14%	≥15%	

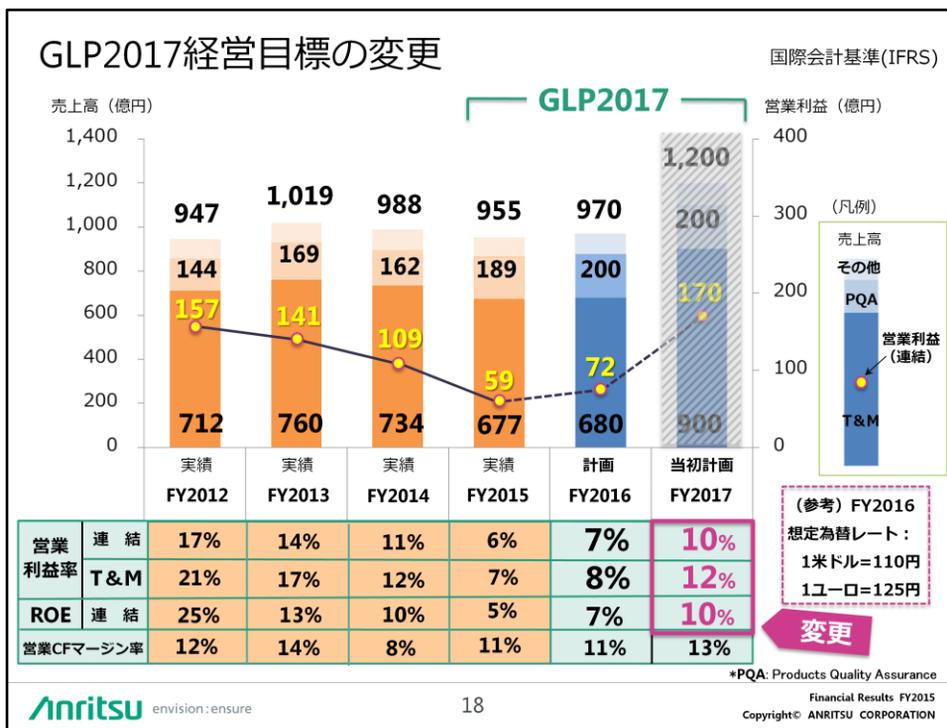
中長期の事業戦略の基本方針は、成長ドライバーを確実にキャッチし利益ある持続的成長を実現することです。

主力のT&M事業の成長ドライバーに変更はありません。あらゆるものが様々な方式でインターネットに繋がる社会(IoT/5G)が実現されようとしています。アンリツはその実現を支える通信技術の発展の中で事業機会を確実にとらえていきます。

PQA事業の成長ドライバーは「安全・安心と健康の増進」です。

中長期の経営基本戦略において目標とする成長率、利益率、ROEは上記のとおりです。

GLP2017の当初計画及び経営目標については、次のスライドで変更しています。

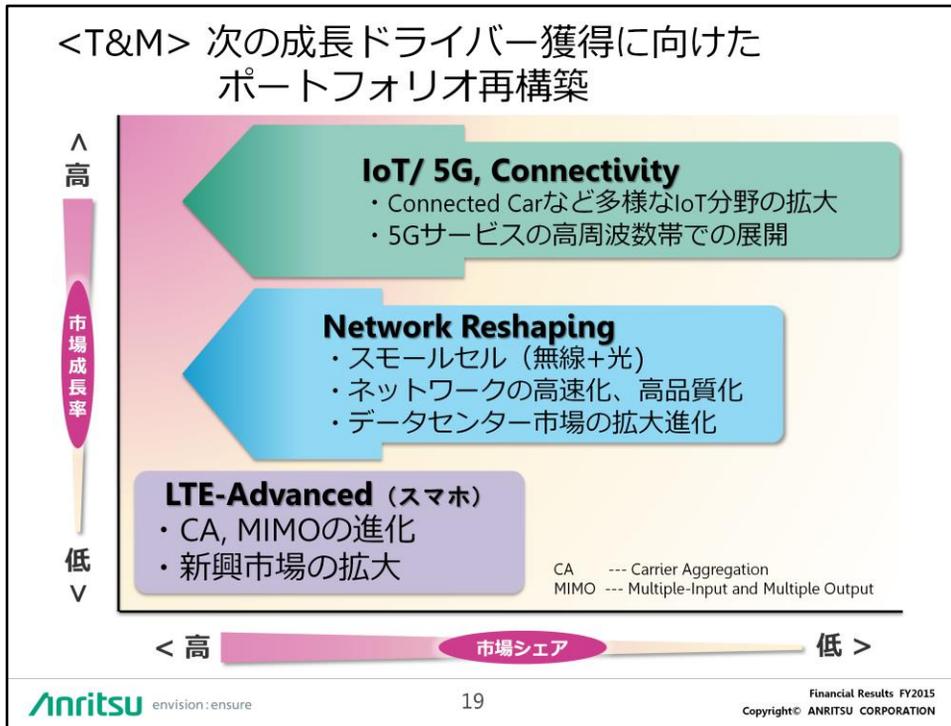


スマートフォン市場の構造変化を背景として、事業環境はGLP2017策定時から大きく変化しています。2017年度連結売上高1,200億円を掲げましたが、GLP2017最終年度での達成は難しいとみています。2017年度経営目標は、2015年度実績および2016年度計画をベースに売上高成長率7%以上を目指すとともに、営業利益率とROEに関しても、下記の通り変更します。

なお、各事業部門とも、当初計画の営業利益率目標をできるだけ早い時期に達成するために、今後とも利益体質の強化に取り組んでまいります。

[2018年3月期の経営目標]

	2015年4月当初計画	⇒	2016年4月計画変更時
営業利益率	連結: 14%		≥ 10%
	T&M: 15%		≥ 12%
	PQA: 8%		≥ 7%
ROE	連結: 14%		10%



スマートフォン市場は成長率が鈍化しているものの、これまで培った信頼と技術力で収益を確実に確保していきます。サービスの拡大で爆発的に増加するモバイルデータトラフィックやデータセンター需要で拡大しつつあるネットワーク再構築 (Network Reshaping) 市場を獲得するために、競争力強化を図っていきます。中長期にわたって成長が期待できるIoT/5G市場での事業機会獲得のために、積極的に投資を続けてまいります。

## <PQA> 利益ある成長に向けたグローバル競争力強化

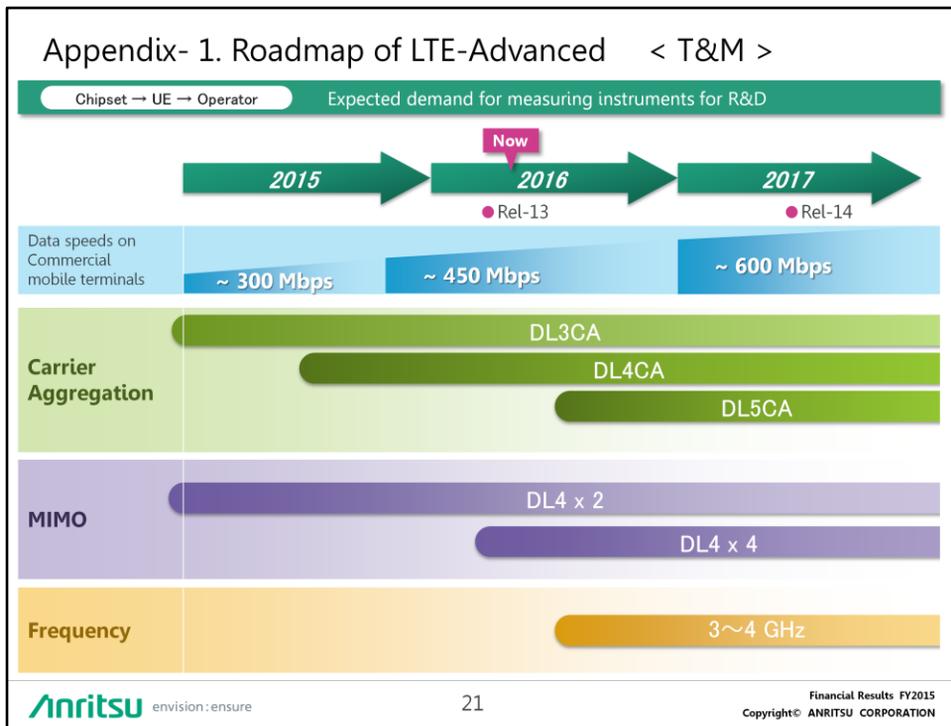
### ▶ 今後の見通し

- コンビニ、スーパーの中食（惣菜、冷食、弁当）のニーズは、今後10年以上にわたって年々増加の傾向が続く。（農林水産省見通し）
- 北米での食肉検査需要増大。
- アジア、新興国における品質保証市場が拡大。

### ▶ 主な取り組み

- 地域毎のニーズにマッチしたX線異物ソリューションの品揃えの充実と高付加価値化。
- グローバル顧客との関係を強化し、海外売上高比率50%を目指す。
- 非食品市場（医薬品・化粧品等）での売上拡大。

PQA事業は、マーケットリーダーとしての日本市場において、安定的な収益基盤を強化していくとともに、成長する海外市場でのマーケットシェア拡大を図っていきます。海外市場での競争力を強化するために、販売体制とともにグローバルなサプライチェーン体制を整備拡充していきます。

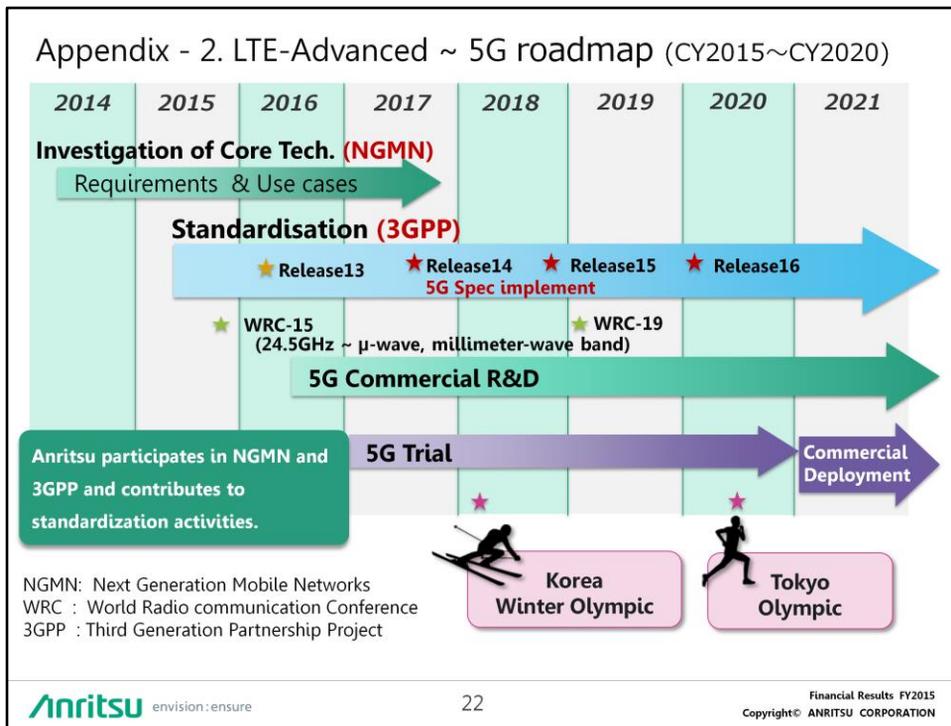


高速・大容量通信を実現するLTE-Advancedの技術進化は続いています。アンリツはLTE-Advancedに対応したソリューションで、先駆的役割を果たします。

・Carrier Aggregation (CA) --- 複数の割当周波数を組み合わせ、より広い帯域幅を仮想的に作り出す技術。帯域幅が広ければ広いほど、高速に大容量のデータを伝送できる。LTE-Advancedの主要技術の一つ。

・MIMO (Multiple-Input and Multiple Output) --- 送受信ともに複数のアンテナを持ち、同一周波数軸上でデータの送受信を行う無線通信技術で、通信速度の高速化が可能となる。LTE-Advancedの主要技術の一つ。

・Frequency --- スマールセルなど、比較的狭いエリアをカバーする周波数帯に対する測定需要。



2020年頃の実用化を目指した5G通信システムについて、現在想定されている実  
現までのロードマップを掲載いたします。

アンリツはNGMN や 3GPPに参加し標準化活動に貢献しています。3GPPが2017年  
後半に策定するRelease14で、5Gの規格が制定される予定です。



(ノート部記載なし)